



## 登録速報（新規登録）

農薬名： リディアNT箱粒剤  
登録番号： 第24504号  
登録日： 2021年3月10日

### 登録内容

#### ・適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イトヨリムシ イトミズリムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	は種時覆土前～移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。			
	移植当日					

#### ・使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
  - ① 山土、畑土などを使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
  - ② 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
  - ③ 粒剤が破碎されるような過度な混和はさけること。
- (2) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ① 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
  - ② 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (3) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (4) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。

- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (6) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (7) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (8) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。